

会報

第56号

いまだ青春

編集発行

公益社団法人
萩広域シルバー
人材センター

～生きがいと地域のニーズを結びます～



「萩陶会」会員作



	監							理	理
	事	”	”	”	”	”	”	事	事
職	松	藤	吉	村	堀	長	長	中	中
員	原	村	屋	田	永	谷	岡	村	村
一	宏	季	哲	郁	孝	義	繁	隆	敏
同	征	志	夫	子	春	明	雄	次	雄

令和二年 元旦



新年のご挨拶



萩市長
藤道 健



新年おめでとうございます。
 会員の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。
 平素より、会員の皆様には、豊富な知識と経験の活用による地域の活性化にご尽力いただきこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。
 日本国内では、関東地方への相次ぐ台風の襲来や局地的な豪雨により甚大な被害が発生し、住民の生活に大きな影響を及ぼしています。想定を超えた災害が国内のいっどこで発生しても不思議ではない昨今、萩市におきましても気を引き締めるよう、行政の長として改めて決意したところでございます。

さて、国内景気は依然緩やかな伸びがあるものの、消費増税による一時的な消費の増加を除き、以前のような力強さは見られない状況となっております。萩市においては、少子高齢化や若者流出に伴う労働力不足による地域経済の活力低下をはじめ、特に主要産業である第一次産業分野において、後継者等の担い手不足が顕著になるなど、地域経済を取り巻く環境は依然厳しいものがあります。
 萩で生まれた若者が萩で働く、また、多くの人に萩に移り住んでもらうには、産業再生によ

る雇用の拡大が必要不可欠です。それを目指し、萩市では多くの施策に取り組んでおります。
 なかでも、この一月下旬に開所する伴走型中小企業支援窓口「萩市ビジネスチャレンジサポートセンター はぎビズ」では、市内の中小企業や起業を志す方々の悩みに寄り添い、強みをカタチにするまで継続して支援し、地域経済の活性化や雇用拡大に繋げてまいります。
 地域経済の活性化に併せて、子育て支援や教育施策の充実を図り、若い世代に魅力を感じ住みたいと思えるまちづくりを引き続き進め、萩市の将来像やまちづくりを、市民と行政が一体となって進める指針となる「萩市基本ビジョン」に掲げる「暮らしの豊かさを実感できるまち」づくりに邁進してまいります。

その実現のために、会員の豊富な知識と経験をお借りできればと考えております。就業による健康維持や社会参加により、あらゆる世代の誰もが就業を通じて交流し、就業に対する意欲を持ち続け、適材適所で能力を発揮することはこれからの世代間の交流による地域活性化に繋げるためには、今後より一層重要なものとなると考えております。

先ほど申しました「萩市基本ビジョン」の実現のため、それを支える「ひとづくり構想」「地域産業振興構想」「まちじゅう博物館構想」の三本柱を策定しました。何れの構想につきましても、会員の皆様のご協力なしでの推進は不可能でございます。引き続き、次世代に繋がる各種施策の実行に対し、皆様のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。
 最後になりましたが、貴センターの益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸、更なるご活躍をお祈り申し上げます、新春のご挨拶いたします。



理事長
中村 敏雄

令和の新時代に入り最初のお正月ということになりましたが、皆様にはお健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今、全国のシルバー人材センターにおいては、会員数を増加させる、いわゆる「会員拡大」が最重要課題として位置付けられ、各センターでさまざまな取組が展開されています。この「会員拡大」については、シルバー人材センターが元気の法人活動を行う上でその源泉となるもので、ひいては「契約金額の拡大」にも繋がるものであります。

当センターにおいても、かねてより会員の皆様にあらゆる機会を通じて「会員一人一会員獲得運動」のご協力をお願いしているところでございます。これに関連する取組として、すでにご案内のとおり、会員が入会会員を紹介した場合一人につき五〇〇円の萩市共通商品券を交付する新たな報奨制度をこのたび山口県シルバー人材センター連合会が設けられました。

会員の皆様には、これを機に当センターが行う「会員一人一会員獲得運動」に対しなお一層のご協力をよろしくお願いいたします。
 とところで、我が国においては六十五歳以上の人口比率が、私が生まれた昭和二十五年では5%にも満たない割合でしたが、昭和四十五年に7%を超え、「高齢化社会」に突入しました。その後、平成六年に14%を超え「高齢社会」に、



阿武町長
花田 憲彦



明けましておめでとうございます。
 会員の皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、会員の皆様には「自主・自立、共働・共助」の理念の下、地域社会の活性化に貢献されておられることに対し、敬意と感謝を申し上げますとともに、私ども行政の業務につきましても多大なご支援・ご協力をいただいております。ここに、心から厚くお礼申し上げます。
 さて、本町におきましては、人口減少が進む中で地方創生に積極的に取組み、「選ばれる町をつくる」として、人口定住対策、一次産業の振興、人のつながりづくりなどを重点施策として進めています。

こうしたこともあって、人口減少は相変わらず進んでおりますが、近年は転入と転出の差である社会増減はプラスマイナスゼロの状況で、昨年度奈古駅の南側に造成しました柳橋分譲宅地についても学校や商業施設に近くて生活至便であると大変好評です。

町ではこうした住宅取得の補助金のほか定住奨励金制度、子育て支援策として高校生までの医療費の完全無償化、今年の十月からは保育料を副食費も含めて完全無償化を図るなど、定住促進には特に力を注いでいるところでございます。また、一次産業においてもUIターン者が増えつつあり、空き家などを活用した新たな起業も

出てきています。更に、道の駅の賑わいや各種イベント、SNSでの情報発信を通じて、まちのサポーターとなる関係人口や町内の活力となる活動人口も着実に増えてきています。

本年度は新たに2つの地域再生計画、「森里海新たなしごとづくり創出プロジェクト」と「まちの縁側推進プロジェクト」が採択され、持続可能で循環型社会の形成に向けて、阿武の海で採れる新鮮な魚貝の付加価値向上、自営による長伐期採伐施設である自伐型林業の推進、また、道の駅の拠点性と滞在性を高めるため、オートキャンプ場などの体験・宿泊施設や観光の核となるビクターセンターを新たに設置し、更なるヒト、モノ、お金の町内循環を高め、町の魅力づくりと活性化を図ろうとしているところでございます。

貴団体におかれましては、地域住民の高齢化、企業の定年延長などの要因により、会員不足が懸念されている中、本町におきましては庁舎管理業務をはじめ、コミュニティワゴン運転業務、園児送迎業務、清掃管理業務などを始めとした多くの業務におきましてご貢献をいただいているところであり、会員の皆様のご活躍が地域にとってなくてはならない存在となっております。

今後、地域社会において、高齢者の役割は益々重要になって参ります。皆様の卓越した技術と豊かな経験が、地域に更に活かされること、また、地域の活性化につながることを切に願っています。

終わりに、萩広域シルバー人材センターの益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝で一層のご活躍されることを心からご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

そして、現在は28%を超えるに至り、世界一の「超高齢社会」になっております。

この高齢化の進展に呼応して高齢者の働き方も時代とともに徐々に変化してまいりました。その高齢者の働き方の一端を担っているシルバー人材センターは、年金プラスアルファの生活でもって、働くことを通じ健康を維持し、生きがいのある生活を送ることが出来ます。

どうか、会員の皆様にはセンターでの就業の意義を大いに感じていただき、これからは長く元気に当センターのお仕事を続けていただければ幸いに存じます。

本年は、令和という新しい時代の幕開けにふさわしく、東京で二回目のオリンピックが開催されます。
 そして、本年は子年ということで、また新たな十二支のサイクルがスタートする年でもあります。

私どもセンター役員一同も新たな気持ちでこの一年を頑張りたいと思っておりますので、会員の皆様には引き続き当センターの事業運営にご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

終わりにあたり、本年が災害や事故のない平穏な一年になりますよう、また会員の皆様そしてご家族の皆様にとりまして最良の年となりますよう心よりお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。





「絵手紙を描いてみよう」と題して木島鈴江氏の指導のもとに四つの班に分かれ、果物や野菜等を題材に、絵の具を使い実際に絵手紙を作成しました。絵手紙作成は初めてという方ばかりでしたが、講師が各席を回って個別指導をされたこともあり、お隣との話も弾み和气あいあいの雰囲気の中で皆さん思い思いの色を使われ、個性あふれる立派な作品が完成していました。

須佐会場でも同様に、最初に山口ヤクルト販売(株)の管理栄養士伊藤さとみ氏から「肌美人はおなかから」と題して、萩会場と同内容の説明を受けた後、萩市を退職後、引き続き再任用で樹木医として萩市観光課に勤務されている草野隆司氏から「樹に・ま・な・ぶ」と題して地域の身近な植物や樹木の役割、普段の生活の中で気づかされる「植物や樹木の知恵」について講話をいただきました。終了後は受講者から複数の質問がありましたが、中には歌の依頼まであり、草野講師にアカペラで自作の曲の披露もいただきました。

会員の福利厚生ならびに女性会員の増強を図るため九月十日に萩会場(サンライフ萩)において「シニア活き活き教室(ヤクルト健康教室・絵手紙作成)」を、また九月十二日には須佐会場(萩市須佐公民館)において「シニア活き活き教室(ヤクルト健康教室・樹木医講話)」を開催し、両会場合わせて四十二名が受講されました。

萩会場では、最初に山口ヤクルト販売(株)の管理栄養士細川千絵氏からお話をいただきました。人の腸内には約一千種類、四十兆個の細菌がいるとされ、細菌が腸内で作る群れは腸内フローラと呼ばれ、健康状態や病気の発症に関連していることが最近になって分かってきました。当日は「肌美人はおなかから」と題して、腸内フローラのバランスが崩れてお腹の調子が悪くなると肌の調子も悪くなること、乳酸菌やビフィズス菌の摂取頻度が高い人ほど腸年齢が若く肌の水分含有量が維持され肌の乾燥が抑制されることなどの腸内細菌と肌との関係、乾燥による肌トラブルの手入れ方法等について説明を受けました。

続いて、「絵手紙を描いてみよう」と題して木島鈴江氏の指導のもとに四つの班に分かれ、果物や野菜等を題材に、絵の具を使い実際に絵手紙を作成しました。絵手紙作成は初めてという方ばかりでしたが、講師が各席を回って個別指導をされたこともあり、お隣との話も弾み和气あいあいの雰囲気の中で皆さん思い思いの色を使われ、個性あふれる立派な作品が完成していました。

須佐会場でも同様に、最初に山口ヤクルト販売(株)の管理栄養士伊藤さとみ氏から「肌美人はおなかから」と題して、萩会場と同内容の説明を受けた後、萩市を退職後、引き続き再任用で樹木医として萩市観光課に勤務されている草野隆司氏から「樹に・ま・な・ぶ」と題して地域の身近な植物や樹木の役割、普段の生活の中で気づかされる「植物や樹木の知恵」について講話をいただきました。終了後は受講者から複数の質問がありましたが、中には歌の依頼まであり、草野講師にアカペラで自作の曲の披露もいただきました。

「シニア活き活き教室」を開催しました

「会員紹介カード」を活用して「ご家族やお知り合いの方をご紹介ください」

会員拡大は、全国のシルバー人材センターが取組む喫緊の最重要課題であり、各センターにおいては「第2次会員100万人達成計画」の目標達成に向けて様々な取組みを行っているところであります。

会員拡大についてはセンターの役割のみならず会員も含め一体となった取り組みが必要であり、その中でも取り分け地域の広範囲に居住をされている会員による紹介活動については、会員拡大の中核的な取組みとなっております。

先に会員の皆さんには文書でお知らせをしましたが、このような状況下のもと、令和元年十月一日から、山口県シルバー人材センター連合会においては、会員による紹介制度を県下のセンターの統一の取組みとして定着させるとともに、県内各センターの会員紹介制度の活性化を図るため、新たに「会員紹介報奨制度」を実施することとされました。

これにより、シルバー人材センターへの入会者を紹介された個人会員には、入会者一名につき五〇〇円相当の「萩市共通商品券」一枚が交付されるようになりました。

萩市・阿武町にお住まいの健康で働く意欲のある六十歳以上の方であれば原則、どなたでも会員になります。

つきましては、会員の皆さんにおかれましては「会員一人一会員獲得運動」として、この機会に周囲のご友人やお知り合いの方々に「会員紹介カード」を活用して入会を勧めていただき、地域で一人でも多くの方にシルバーに入会いただきますよう、取り組みをよろしくお願ひします。

令和元年度の各事務所の月別会員数の状況(4月~11月)

	(参考) 31年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	3月 末の 増減数
萩事務所	297	306	299	296	291	292	295	297	300	3
阿武出張所	51	50	51	50	51	52	52	53	53	2
むつみ出張所	39	39	36	37	37	37	37	37	37	△2
須佐出張所	56	57	58	53	53	53	53	54	54	△2
田万川出張所	42	43	43	43	45	46	48	49	50	8
合計	485	495	487	479	477	480	485	490	494	9

※数値は各月末の会員数

普及啓発・入会勧誘活動

全国シルバー人材センター事業協会では、「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間(十月)」中の第三土曜日を基準とした前後の日を「シルバーの日」として設定し、地域貢献等の活動を行うことによりシルバー事業の普及啓発を行うこととしています。

当センターでは、これを受けて今年度も十月十九日の土曜日にシルバー事業の意義・事業活動等を広く地域の住民に周知し、シルバー事業への理解・協力を求めるとともに、高齢者のシルバー人材センターへの入会促進を図るため、萩・阿武地域在住の役員の方々のご協力を得て、アトラス萩店の店頭においてチラシ配布等の普及啓発活動を実施しました。

当日はシルバー人材センターの幟を立て、センターの緑色のお揃いのジャンパーを着用し、午前九時過ぎから配布を開始しました。配布している最中にはセンターが受注する仕事の内容や入会に関するご相談もいただき、一時間足らずで用意した配布物(四〇〇セット)は無くなりました。

センターでは、今後もこのような活動を継続し、シルバー人材センターの周知を図るとともに会員の増強に努めていきます。



衛生委員会健康講習会の開催

去る十一月十五日、サンライフ萩においてシルバー派遣事業衛生委員会の主催により「健康講習会」が開催され、二十六名の会員が参加されました。

講習会では「加齢に伴う目の変化と目の健康について」と題し、当センターの産業医で衛生委員会委員でもある医療法人さがら眼科クリニック副院長の相良絵見先生から講演をいただきました。

写真や動画を見ながら目の病気、加齢による目の症状などの説明を受けました。緑内障は四十歳以上で二十人に一人の割合でなる病気であるにも関わらず、視野の欠損は反対側の目でカバーするため、自覚症状に乏しく、来院される大半の方が緑内障の存在に気が付いていないことが多いそうです。そのため、早期発見が難しく、かなり症状が進んでしまってから見つかることもよくあるそうです。

重要なことは、自覚症状がなくとも必ず定期健診を受けることにあり、早期発見の大切さと、健康な時こそ健診を受けることが大切であるということを学びました。講習会の最後には活発に質問もあり、受講者の関心の高さをうかがうことができました。

衛生委員会では、会員のみなさんの健康保持・増進を図っていくために今後も健康に関する講習会を開催していきますので、ご都合がつけばぜひご参加ください。



去る十一月十五日、サンライフ萩においてシルバー派遣事業衛生委員会の主催により「健康講習会」が開催され、二十六名の会員が参加されました。

講習会では「加齢に伴う目の変化と目の健康について」と題し、当センターの産業医で衛生委員会委員でもある医療法人さがら眼科クリニック副院長の相良絵見先生から講演をいただきました。

写真や動画を見ながら目の病気、加齢による目の症状などの説明を受けました。緑内障は四十歳以上で二十人に一人の割合でなる病気であるにも関わらず、視野の欠損は反対側の目でカバーするため、自覚症状に乏しく、来院される大半の方が緑内障の存在に気が付いていないことが多いそうです。そのため、早期発見が難しく、かなり症状が進んでしまってから見つかることもよくあるそうです。

重要なことは、自覚症状がなくとも必ず定期健診を受けることにあり、早期発見の大切さと、健康な時こそ健診を受けることが大切であるということを学びました。講習会の最後には活発に質問もあり、受講者の関心の高さをうかがうことができました。

衛生委員会では、会員のみなさんの健康保持・増進を図っていくために今後も健康に関する講習会を開催していきますので、ご都合がつけばぜひご参加ください。

理事会報告

●第1回理事会（4月25日開催）

(1) 報告事項

- 第1号報告 理事長の職務の執行状況報告
事業運営状況
予算執行状況
理事長が出席した会議・研修等

(2) 決議事項

- 第1号議案 新規入会者専決処分承認の件
- 第2号議案 新規入会者承認の件
- 第3号議案 特別会員（ゴールド会員登録）承認の件
- 第4号議案 配分金規程一部改正の件
- 第5号議案 改元に伴う規程その他文書等における元号表記承認の件
- 第6号議案 改元に伴う関係規程等の字句の整理に関する規程制定の件
- 第7号議案 令和元年度収支予算書一部補正承認の件
- 第8号議案 令和元年度会員表彰対象者承認の件
- 第9号議案 平成三十年度事業報告承認の件
- 第10号議案 平成三十年度収支決算承認の件
- 第11号議案 令和元年度定時総会招集決定の件

●第2回理事会（10月23日開催）

(1) 報告事項

- 第1号報告 理事長の職務の執行状況報告
事業運営状況
予算の執行状況及び決算見込み
理事長が出席した会議・研修等
- 第2号報告 「令和元年度第1回・第2回広報委員会」報告
- 第3号報告 「令和元年度第1回安全委員会」報告
- 第4号報告 「令和元年度第1回福祉・家事援助委員会」報告

(2) 決議事項

- 第1号議案 新規入会者専決処分承認の件
- 第2号議案 新規入会者承認の件
- 第3号議案 会員会費規程一部改正の件
- 第4号議案 配分金規程一部改正の件
- 第5号議案 材料費等に関する見積基準一部改正の件
- 第6号議案 事務費規程一部改正の件
- 第7号議案 債務の一部免除承認の件
- 第8号議案 令和元年度収支予算書一部補正承認の件

高齢者活躍人材確保育成事業（プロから学ぶ剪定基礎講習）が開催されました



去る十一月二十日（水）萩浄化センターにおいて、山口県シルバー人材センター連合会主催により高齢者活躍人材確保育成事業として技能講習会（プロから学ぶ剪定講習）が開催され、萩・阿武管内の各地から十八名が受講されました。

本講習会は、萩市並びに阿武町に在住の六十歳以上でシルバー人材センターでの就業に興味のある方を対象に、(有)廣兼造園代表取締役の廣兼聡氏を講師に迎え実施をされたもので、当日は、午前中は屋内で庭木の管理のための基礎知識として、芽の種類や定芽のつき方と枝の出方、切除すべき枝の種類、枝透かし・切り戻しなどの剪定法の種類等について説明を受け、午後は屋外に出て鋏を片手に施設内のツツジ・ツバキ・ツゲを実際に講師の指導のもと剪定をしました。

実習では、講師が指導の一環として切除すべき枝や剪定方法等の説明を交えながら剪定すべきと手際良く鋏を入れられると、見る見るうちに目の前の樹はすっきりときれいになり、見た目も美しく、さすがプロの仕事で、参加された受講者は一様に講師の一手一投足に見入り、感心しきりで、剪定に関する関心は大いに高まったものと思います。

安全委員会だより

安全就業の周知徹底と意識の高揚を図るため堀永安委員長、中村安全副委員長、田中安全委員、長岡業務課長の四名で安全巡回パトロールを十月三十日（水）に実施し、萩地域の民家の草刈、須佐地域の民家の剪定、むつみ地域の市道・公共用地の草刈、民家の剪定の計五か所の就業現場を巡回して作業状況や事故防止対策の状況確認を行いました。

また、十一月十四日（木）には山口県シルバー人材センター連合会の安全委員会の安全パトロールが実施され、県連合会と一緒に当センターからは中村理事長、安全委員四名、職員三名の計八名が参加し、萩地域の民家の剪定現場と草刈現場の二か所の巡回を行いました。

残念ながら今年度も多くの事故が発生しており、十一月末現在の事故件数は九件で、うち賠償事故は五件でした。賠償事故はセンターの信用を損なう原因となり、注意すれば防げる事故ばかりでした。

安全就業は、シルバー人材センターにとって最も重要なことです。さらなる安全意識を持って就業してください。

（作業の安全を確保するために）

- ・ 服装・履物・保護具は、作業に適したものを着用しましょう。
- ・ 準備運動は必ずしましょう。
- ・ 周囲の状況をよく確認してから、作業にかけましょう。
- ・ 使用する保護具や器具類の確認と点検をしましょう。
- ・ 作業別安全就業基準を再確認しましょう。



会員のボランティア活動

【萩事務所管内】

- 福祉施設でのゲーム・カラオケの実施、イベント開催の手伝い等（原則毎月一回実施）
- 山田保育園の剪定（三月に実施予定）
- 【須佐出張所管内】
● 須佐中学校の草刈（八月二十一日：三名参加）
- 須佐古高等学校須佐分校の草刈（九月九日：四名参加）
- 国道一九一号沿いのゴミ拾い（三月に実施予定）
- 【むつみ出張所管内】
● むつみ総合事務所周辺の草刈・草取（六月一日：五名参加）
- むつみ総合事務所前庭の剪定・草刈（十一月十八日・十九日：十六名参加）



【田万川出張所管内】

- 小川交流センター「みのり」の草刈・草取（六月三日：三名参加）
- 湊・須湯・瀬越海水浴場の海浜清掃（七月十七日：十七名参加）
- 【阿武出張所管内】
● グリーンパークあぶの草刈・芝刈（五月二十三日・九月二十日：二名参加）
- 阿武町役場の門松作成（十二月下旬設置・一月撤去予定）
- 交通安全期間中の国道一九一号沿い安全旗の設置（五月十日・七月十日・九月二十日：年三回・五か所：二名参加）



会員親睦旅行

今年の親睦旅行は「いだてん」に 令和ゆかりの地と熊本城復興視察

今回の会員親睦旅行は、NHK大河ドラマ「いだてん」のふるさと金栗さんを訪ねて福岡・熊本方面に行ってきました。参加会員は総勢二十五名で豪華中型バスは空席も無く満員状態で一泊二日の旅が始まりました。そして、萩中央公園で全員がそろい、お楽しみ品の品物をたくさん積み込んだバスは、最初の目的地の「令和ゆかりの地」坂本八幡宮に着きました。この日は三連休の次の日で観光客もまばらで十分に見学することができました。その後、大宰府やかえる寺など参拝し、久留米で昼食となりました。午後は熊本方面に向かい、大河ドラマ「いだてん」記念館と金栗四三生家を訪れました。築二〇〇年の古民家は、歴史を感じさせる立派な佇まいで、当時の金栗少年の生き様が肌で感じられ感動しました。そこで金栗さんとみんなで記念撮影をしたのですが、カメラと腕が悪く良い写真が撮れませんでした。後でプリントして気が付いたのですが、写真中央の光が強く右端の影の部分に居られた方の写りが悪く大変失礼しました。ご了承ください。



いよいよ宿泊は山鹿温泉です。懇親会の前に山鹿のお湯にたっぷり浸かり、日頃の疲れを癒したのち、恒例のカラオケ大会で時を忘れ、大盛り上がりの一日でした。

二日目は、山鹿灯籠の民芸館など山鹿の街を散策し、熊本城へと向かいました。熊本城では、急ピッチで復旧工事が行われていましたが、地震の怖さをまざまざと痛感しました。会員さんは、復興の手助けにと、たくさんのお土産を買っていました。そして一行は、菊水で昼食を済ましたのち、帰路についたのですが、車内は恒例の豪華ビンゴ大会で大盛り上がり、寝る間もなく萩に無事到着しました。この二日間の体験は、とても楽しい思い出となり、今後も健康で楽しい日々が送れそうです。参加して本当に良かったです。

参加者が年々減少しています。萩・阿武管内の五事務所の地域の枠を越えて会員間の親睦が図られる絶好の機会であり、来年以降も続けたいと思いますので、ぜひご参加ください。

配分金所得と 確定申告について

シルバー人材センターで得た「配分金収入」は所得税法上「雑所得」に区分され、六十五万円まで控除されます。一月下旬に「配分金支払証明書」を送付しますので、確定申告が必要の方は、各自で手続きをしてください。

令和二年配分金支払日

1月24日(金)	2月25日(火)
3月25日(水)	4月24日(金)
5月25日(月)	6月25日(木)
7月22日(水)	8月25日(火)
9月25日(金)	10月23日(金)
11月25日(水)	12月25日(金)

広報委員会構成員

委員長	長岡 繁雄
副委員長	長山 雅範
委員	長谷 義明
委員	上田 勝
委員	齋藤 敏男
委員	森田 直人
委員	中村すみれ

編集後記

新元号初めての一月発行の会報にあたり、これまでは表紙はその年の「干支」の写真を掲載していましたが、新しい時代になったこと、平成最後の年が干支最後の「イノシシ」であったことなどで、広報委員会で表紙をどうするか協議検討しました。

結果、「令和」最初の一月発行で、干支も「ネズミ」の年であり、また、新時代最初の会報であることで、これからは「干支」を掲載することになりました。会員の皆様からの、会報にかかるご意見を、お待ちしております。

